

令和5年度学校自己評価システムシート（県立狭山工業高等学校）

目指す学校像	誠実で創造性に富み、ものづくりをとおしてよりよい未来を実現する技術者を育成する工業高校
--------	---------------------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 学習習慣の確立や学習指導と評価の改善を通じて、確かな学力を育成する。 保護者と連携して、規律ある高校生活を実現するとともに、生徒一人一人を大切に生徒指導を推進する。 地域への情報発信や連携を通じて、地域に根ざした学校づくりを推進する。 キャリア教育の充実やものづくりの技術・技能の向上、資格取得を推進し、生徒の進路希望を実現させる。
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年 度 評 価 (月 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 観点別評価導入二年目の年となり、昨年度の評価活動を振り返り、改善してゆく。主体的・対話的で深い学びに対応した評価活動を完成する必要がある。 BYADによる一人一台PCの活用を学校全体で考え、主体的・協働的・多角的に物事を探究する生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価活動の改善と次年度に向けての評価基準作り 教科毎のIT機器の積極的な活用と探究心を持った生徒の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を意識した評価活動の実現。 レポートや課題を作成する上での調べ学習やプレゼンテーションソフトの活用など、IT機器の使用場面を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 3つの評価の観点を意識した授業展開を行い、評価活動に活かされたか。 生徒アンケートの授業について「とても充実している」「充実している」と回答する生徒を増やせたか。 			
2	<ul style="list-style-type: none"> 成年年齢が18歳となり、様々な事に責任を持たせる必要がある。今まで以上に生徒の自主性・自立性を高め、自己決定権を育成し、積極的な社会参加を促進する必要がある。 保護者アンケートによると、家庭での時間の使い方については課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自主性・自立性を高める工夫。 家庭での時間の使い方の改善。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自主性・自立性を高める活動をとおして、物事を自分の力で考え判断できるようにする。 社会参加の自覚を促し、社会に広く目を向けさせる。 規律ある高校生活を送ることで学習に対する意識を高め、家庭での学習習慣を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの「本校での学校生活は充実している」「本校に入学して満足している」生徒を増やせたか。 保護者アンケートの家庭での「学習時間が増加している」「勉強・読書をする」生徒を増やせたか。 			
3	<ul style="list-style-type: none"> 少子化や普通高校のニーズの高まりから全国的に専門高校の人气が低迷している。本校も昨年度と本年度は三学科とも新入生が定員割れを起こしている。そこで、説明会等の工夫と充実、地域イベント等の参加やSNSの活用等を通して、本校の魅力をPRし、入学希望者の増加を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生とその保護者や中学校の先生方に本校の魅力を伝え抜き、入試の倍率を上げる。 地域との交流を積極的に推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部の方に積極的に本校の魅力をPRする。校内外の説明会では様々な事に挑戦する本校の様子や活き活きとした在校生の声を伝える。さらに多方面から本校を理解してもらうために、SNSの活用や地域イベントへの参加などに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の魅力が広く伝えられ倍率向上につながったか。 校内、校外での学校説明会に改善、工夫は行ったか。 SNSの活用や地域イベントへの参加が積極的に行えたか。 			
4	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な情報提供や丁寧な面接練習等により、進路決定率が高い水準にある。引き続きキャリアガイダンスを充実させ、早い段階で目的意識を持って高校生活を送らせるようにする。 課題研究、実習や資格取得などの取組や成果などを企業の方や外部に向けて発信し、生徒の進路希望の視野を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 早い段階からの進路意識の高揚と目的を持った高校生活の実現。 進路希望の視野の拡大。 	<ul style="list-style-type: none"> カウンセリング・マインドに基づいた計画的・組織的な進路指導を行う。面談や情報提供を密に行い、ミスマッチのない進路選択を実現する。 イベント等を通して、生徒が社会との接点を持つようにし、自己の進路を多角的に考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの「自分の進路決定について満足している」「やりたいことがはっきりしている」生徒を増やせたか。 アンケート等から、就職、進学ともに幅広い視野を持って進路選択ができたか。 			

学 校 関 係 者 評 価	
実施日 令和 年 月 日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	